

元日本医師会常任理事 小森貴先生にインタビュー



M班 岩橋尚孝 加藤快世 重吉了 棚橋祐太 成宮宏昭 細川祥太 望月彩香 米田涼之

小森先生の御略歴

昭和54年	金沢大学医学部卒業
昭和60年	石川県立中央病院耳鼻咽喉科医長就任
平成元年	小森耳鼻咽喉科医院開設。院長となる
平成10-18年	石川県医師会理事
平成24-28年	日本医師会常任理事

日本医師会について

会員約16万7千人を有する学術専門団体である。医道の高揚、医学教育の向上、医学と関連化学との総合進歩、生涯教育を目的とした事業を行っている。(日本医師会HPより)

日本医師会は医師が個人の資格で加盟する団体で、活動はすべての会員からの会費で行っている。

日本医師会の常任理事とは、政治の世界で例えるなら、国会議員のようなものである。財源確保のための交渉をするのが日本医師会役員の仕事である。(小森貴先生)

医師会に入られた動機

医師会の役員になろうと思った動機は以下のような私自身の体験があったからです。

耳鼻咽喉科として学校の検診に行ったことがあり、その際に医療器具数十本を消毒して使いまわしていました。しかしそれではエイズなどの消毒ができず、不完全な消毒による感染の危険がある点に疑問をもち、改善しようと考えました。

まずは耳鼻科の医師で話し合い、教育委員会の人も話し合いました。また、財源の相談をするため金沢市長に会いました。その後金沢市医師会に認めてもらい、金沢市医師会から金沢市に予算要望が出たことにより検診の際に人数分の医療器具を使用するようになりました。このような改善は医師会の力なくしてはなしえないものであったという経験から、自分のやりたいことの実現のために医師会を信用しない手はないと思い、医師会の役員になりました。

(小森貴先生)



医師会での御活動

現在では定期接種となっている、**7つのワクチンを定期接種にするために尽力をした。**

○詳しくは...?

定期接種は市町村が主体で行うもので、費用は市町村が7割、国が3割負担している

○しかし!

被接種者ならびにその保護者からお金をとることができる。

○現状は...?

ほとんどの市町村はお金を取っていないため、人々は定期接種が無料だと思っている。だが、小さな市町村ではその費用を賄えない! だからといってお金を取り始めると反感を買ってしまう!

○そこで!

3年間に限って試しにHPVワクチン、肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの接種を予防接種法にいれない特別な接種形態をとった。

○恒久化するために

その頃、国家公務員の給料を下げることになったが、都道府県市町村は反対し、下げなかった。そこで国は交付税を減らした。その余った分のお金を回してほしいと政治家に頼んだ。

○その結果!

3つのワクチンに関しては定期接種扱いを当面続けるということになった。予防接種法改正の時は7つのワクチンのうち3つしか定期接種にできなかったため、残りの4つのワクチンの定期接種化は付帯決議(法律に書き込めなかった、努力しなければならない部分 全党一致が必要)に今後必要とされるワクチンについては同様の枠組みで入れるように努めるという趣旨の文章を書き、根回しをすることによって実現した。

医師として大事なこと (医学生へのメッセージ)

○ 医者のプロフェッショナリズムは患者さんを守ること。

弱者を相手にしているから上から目線になってはいけない。

昔は医師に裁量権があった(医師が勝手にしていい)が、今はお互いが厳しい道を律しあっていく必要がある。

私たちは医師だから勝手にできるのではなく、国民に勝手にしてくださいと言われて初めて勝手にできるので、私たちが最良だと思う医療を行うためには奉仕し、自ら努力しなければならない。

○ 時に医師が、国家が法律という名のもとに社会的弱者に対して敵であると思ったときに、法よりもっと高い理念で反対できるかが大事。

世界医師会の仕事もしていたのだが、世界の医師会は政府と戦っている。

例えば、シリアでは拷問に医師を立ち会わせるので、シリア医師会は世界医師会を通して拷問に医師を立ち会わせるのには反対だという声明を出した。

医師は本来そこまでやるべき。

自分の人生の中でその覚悟をどこまで作っていけるかがプロフェッショナルである。

○ 皆の課題として解決しようと思わせるためには人知れず自分が努力しなければならない。

そういうことをするためにはあの人の言うことはもっともだ、いつも正しい、真摯にものを考えていると周りに思わせることが大事である。

医学生のうちにやっておくべきこと

○ 自分とは何か、何が正しいのか、生きていくためにはどうしたらいいかとことん悩む。

人は関わりあうことによるみ存在する。

また私は動くことによって私でいられるし、

活動し続けることによって存在する。

何もしていないのは存在していないのと同じ。

そのようなことを考える時期である。

○ 狭い世界で生きているので外国に行くことよい。

○ チャレンジすることも大事。

